

夢をかたちに

令和6年度
出水商業高等学校
進路指導部
進路便り
No. 4 2024.7.16

「自ら箸を取れ」 ～渋沢栄一の言葉～

7月3日から新紙幣が発行されることとなり、1万円札の肖像が福沢諭吉から近代日本経済の父と呼ばれる渋沢栄一に変更されました。その渋沢の著書である『論語と算盤』（1916年）のなかには、「自ら箸を取れ」という言葉が見られます。この言葉にはどのようなメッセージが込められているのでしょうか。次の文章を読んで考えてみましょう。

もともと今の世の中には人が多い。官庁にも、会社にも、銀行にも、人がたくさん余っているくらいだ。しかし、上の人間が「これなら大丈夫」と安心して任せられる人物は少ない。だからどこにおいても、優良な人物ならば、いくらでも欲しがっている。

こうして人材登用のお膳立てをして、われわれは待っているのだが、この用意を食べるかどうかは箸を取る人の気持ち次第でしかない。ご馳走の献立をつくったうえに、それを口に運んでやるほど先輩や世の中はヒマではないのだ。（中略）「何かひとつ仕事をしてやろう」とする者は、自分で箸を取らなければダメなのだ。（訳：守屋淳） ※下線は引用者。

読んで内容をつかむことができたでしょうか。要するに、どのような業界に行こうとするにせよ、受動的な態度で過ごしてはチャンスをつかみ取ることはできませんから、自分から動こうとすることが大切です、ということだと思います。

しかし、『論語と算盤』は長くビジネス書として読まれてきたものでしょうから、高校生の皆さんには少しピンとこないところもあったのではないかと思います。そこで、あらためて文章中の「先輩や世の中」を「企業/学校」と置き換えて、上記の下線部を読んでみることにしましょう。

（企業/学校は、）①ウェブサイトにて「企業/学校」紹介を丁寧に行っているうえに、②充実した「企業/学校」案内パンフレットを作成しており、高校生からの要望があれば発送もしてくれる。さらには、③企業見学やオープンキャンパスといった機会まで設けてくれている。それらを活用しようとしないう高校生に対応するほど「企業/学校」に余裕はないのだ。「内定を得よう」「合格を勝ち取ろう」とする者は、自分で箸を取らなければダメなのだ。

いかがでしょうか。

- ① 動画やSNSに費やす時間を、少しだけ企業紹介や上級学校のウェブサイトを閲覧する時間にまわすことはできませんか。
- ② ウェブサイトから取り寄せることができるもの（有料のものもあります。）や、進路指導室や進路資料室で閲覧が可能なものもあります。
- ③ 普段より時間のとれる夏期休業期間が始まりますので、遠方にある企業の見学や、大学・専門学校のオープンキャンパスへの参加を検討してみましょう。

最後になりますが、皆さんが自ら箸を取る夏を過ごしてくれることを期待しています。

進路実現←夏に頑張ること

夏休み中は、就職・進学対策講座や面接練習に積極的な姿勢で臨みましょう。進学希望者のうち総合型選抜で受験予定の生徒は、8月6日

（火）に、これに該当しない生徒は8月20日（火）～23日（金）に校内選考会に臨むこととなります。

就職希望の生徒

←①求人票の読み込みと情報収集・②応募前職場見学への参加

- ①求人票記載事項は、すべて質問されると考えてください。代表者名や資本金等も確認！
- ②は、申込期限を設けている企業もありますので、早めに担任または進路指導部に相談してください。

進学希望の生徒

←①オープンキャンパスへの参加・志望校の絞り込み・②試験に向けて計画を立てる

- ①オープンキャンパスでは、その学校ならではの特色を質問しよう。目的意識をもって参加しよう。
- ②人間には、課題を終わらせるまでの時間を少なく見積もるといった性質があります。想定の5倍の時間が必要だと考えて動くようにしよう。

3年生に聞きました ～1・2年生のときの後悔～

進路実現に向けて、頑張っている3年生に聞きました。進路に関連して、1・2年生のとき(特に夏)、これをしてあげればよかったという後悔はありますか、という内容です。1・2年生の皆さんに対する、先輩方のアドバイスになっています。これを参考にして、この夏どう過ごすかを考えてみてください。

進路選択に関する後悔

- 自分としっかり向き合うことが大事です。「本当に自分がやりたいことなのか」や、「自分がどのような人になりたいか」を考えれば、「いま自分にあるもの」と、「何を磨くべきか」、「どう動くべきか」が早い段階で見えてきます。
- 自分が本当に興味のあること、やりたいことを理解することが必要です。1, 2年生の間で将来の夢が3回ほど変わり、結局自分は何をしたいのか分からなくなり悩みました。好きなことを仕事にしたいと考えたとき、短期的な「好き」という感情で進学先を決めても、続かなくて何度も変更してしまい、進路に対する不安が大きくなりました。
- 3年生の最初の三者面談までに進路を決めておかなかったことを後悔しています。担任の先生に相談するのが遅くなったり、オープンキャンパスへの参加が遅くなったりしてしまいました。
- 早くから求人票を見ておけば良かったです。3年生への進級が間近になってから求人票を見始めたため、進路希望調査を書く際に焦ってしまいました。
- 家族の意見をきちんと聞くことが大事だと思いました。家族からの進路に対する意見には反発もしましたが、私自身のことを長年見守ってくれたうえでアドバイスをしてくれていたのだと気づきました。
- 自己分析をしてあげれば良かったです。面接ノートに自分の長所・短所を書かなければならず、志望動機などに時間を多く使えるようにするためにも、あらかじめそれらを書きだしておくのと良いです。

オープンキャンパス(以下OC)に関する後悔

- 総合型選抜やAO型選抜を希望する場合、OCの参加を条件としている場合があります。早いうちから学校を比べて、自分に合っているかを見ておけば良かったと後悔しています。
- いろいろな分野の学校のOCに行けば良かったです。ある分野に進もうと考えていたので、その分野以外の学校には行きませんでした。そのため、その後に進路変更をすることになった際、とても後悔しました。
- 大学のOCで開催される授業やゼミ体験など、参加できるものは全て参加しておけば良かったです。私が行きたい大学のOCは、参加希望人数が多かったようで、事前に予約を取らないと参加できないものがありました。時間に余裕を持って行くように注意してください。
- OCで質問しなかったことを後悔しています。行っただけで、やることをやったと勘違いしてしまいました。
- 進学を考えていなくても、OCに行っておけば良かったと思っています。自分の可能性が広がっていたかもしれない。

高校生活に関する後悔

- 勉強をもっとしておけば良かったです。評定平均値が足りずに、志望校に行けないということも。
- 苦手科目の勉強・復習をしてあげれば良かったです。夏休み明けの授業で、1学期の復習テストが全く解けなかったことがありました。
- 夏休みにアルバイトをしていて忙しかったのですが、嫌でも勉強をするべきでした。夏休み明けの全商英検の勉強をしなけりなかつたのに、しなかつたので不合格でした。
- 「高校生活で何を頑張ったのか」について話さないといけない場面があるので、一生懸命頑張れるものをつくっておくことが大事だと思います。学校で出された課題をこなしているだけでは、きちんと話せません。
- ボランティア活動に行けば良かったです。自己PRにつながると思ったからです。
- 読書をしてあげれば良かったです。文章力がないと感じているため、志望理由や小論文を書くのが大変です。様々な言葉を知っていたほうが良い文章が書けます。
- 提出物を期限内にきちんと提出できないと、後々自分自身が困ることになります。
- もっと毎日を全力で楽しんでいれば良かったです。3年生になったら、進路に追われ、合否が決まるのも人それぞれ時期が違うので、友人と遊びたくても遊べなくなります。

検定試験に関する後悔

- 3年生は特に時間がないから、1, 2年生のうち取得できるものを確実に取りましょう。挑戦してみる事が大事です。それをしないと、履歴書に検定について書くことができず、求人票が届く直前である3年次の6月に多くの検定を受けなければならないという状況が待っています。
- 志望校の特待生制度を利用するための条件として、全商検定1級をいくつか取っていないと焦っています。
- 取れる検定は積極的に取っていた方が、入学金や授業料が免除されることがありますね。